

栄光の下の試練

平成十一年度大学入試報告

進路指導部

平成十一年度入試で特筆すべきは、東大三〇名(新卒二一名)、筑波大五六名(新卒四三名)の合格です。東大は二年ぶりに三〇の大台に乗せ、全国公立高校中第二位であり、筑波大は全国第一位を堅持しました。特に後期日程入試で、東大四名(新卒四名)、筑波大一九名(新卒一六名)の合格を出したことは、本校生の粘り強い奮闘の賜物として賞賛に値します。

東大四名のうち三名は前期日程入試に続いての挑戦、筑波大一名のうち一〇名は前期に続いての挑戦で合格を射止めました。私大では慶応大が昨年比一九名増の七〇名(新卒四〇名)、早稲田大も六名増の八六名(新卒四七名)の合格者を出し大健闘しました。

その一方で、東工大や一橋大、東北大が伸び悩み、北大や茨城大で合格者を減らした結果、国立大合格者の総数では二三名減の一八九名(新卒一一四名)と大幅に減少するという顕著な特徴も見えました。

公立大・私立大等を加えた合格者総数は三八名減の八四四名(新卒四〇一名)で、新卒生の四年制大学進学者数は、前年比三三二名減の二〇二名となっています。再受験の道を選んだ者は一五三名に上ります。ここ数年、指摘されてきた本校

生の難関大学受験志向は、今年の入試で一層の強まりを見せました。東大、東工大、一橋大、東北大、お茶の水女子大、筑波大の六大学に京都市大を加えた七大学の総受験数は三四九件、本校現役生の国立大学受験総数の七三%を占め、過去最高となりました。七大学で八七名の合格は健闘とも言えますが、厳しい数字であることは言うまでもありません。

難関大集中受験の見返りとして、合格大学数の減少があります。過去四年間三〇前後であったのが本年は二一となりました。埼玉大、宇都宮大などは受験者〇、群馬大は受験者三名で合格者〇でした。その他、少人数ながら受験はして合格者〇となった国立大は一六に上ります。

公立大についても昨年の五大学七名合格から、二大学三名の合格に減少しました。

本校生が、志を高く難関大に果敢に挑む背景には、将来への進路設想への確固たる価値観が存在していると思われる、単にランキングの上位の大学を受験して自分を試すといった短絡な志向のためではないはずですが、右の数字は、受験大学の選択や組み立ての面で一考の余地があることを示しているように思われます。同時に、高い志望をする以上、それに見合う一層の実力を涵養していくことが課せられた急務であると言えます。

平成11年度入試合格状況

主要国立大学

主要私立大学

公立大・大学校等

大学	合格者	新卒
北海道大	5	1
東北大	12	7
茨城大	2	1
筑波大	56	43
千葉大	13	8
お茶の水大	7	4
東京大	30	21
東京外語大	5	3
東工大	11	5
一橋大	7	3
横浜国大	11	6
名古屋大	1	0
京都大	7	4
上記大学計	167	106
その他計	22	8
国立大計	189	114

大学	合格者	新卒
青山学院大	31	13
学習院大	23	12
慶応大	70	40
国際基督大	7	5
上智大	21	9
中央大	24	10
津田塾大	6	5
東京女子大	10	7
東京理科大	94	36
日本女子大	15	12
明治大	36	17
立教大	26	15
早稲田大	86	47
上記大学計	449	228
その他計	191	53
私立大計	640	281

大学	合格者	新卒
茨城県立医療大	3	2
高崎経済大	1	
京都府立大	1	1
公立大計	5	3
防衛	7	2
気象	1	
大学校計	8	2
筑波医療技短	1	1
国立短大計	1	1
鶴川女子短	1	
私立短大計	1	
合格者総計	844	401